

学校教育目標

- 基礎・基本を大切にし、ねばり強く学び続ける態度を育てます。 【知】
- 社会の基本的なルールやマナーを身につけ、自立する力を育てます。 【徳】
- 心と体を健やかに、はぐくみます。 【体】
- 互いのよさを認め合い、共に生きていこうとする態度や力を育てます。 【公】
- 人とのかかわりを豊かにし、社会への視野を広げる態度を育てます。 【開】



〈ホームページアドレス〉

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/ihs/kamishirane/>

新学習指導要領と「GIGA スクール構想」がもたらすこと

副校長 安富 直樹

2021年1月8日に再び緊急事態宣言が発出され、感染拡大を防ぐため不要不急の外出や移動の自粛が要請され、部活動では早朝練習や対外試合ができなくなっています。何かと窮屈な日々が続く中、本校生徒は、手洗いを励行し、感染予防に努めています。保健安全委員が教室にあるCO2濃度計の数値をもとに換気に気を配るなど、生徒は様々な場で「3密」にならないように学校生活を送っています。

2020年の流行語大賞は「3密」でした。新型コロナウイルスの影響を反映した言葉が多く選出されました。選考委員の言語学者金田一秀穂さんは、年間大賞の「3密」について、「日本語は複数の言葉をまとめることが得意で、『3密』という、分かりやすくすぐに伝わる。日本語の偉いところだと思います。」と説明されていました。「密閉・密集・密接」を避けましょうという代わりに、「3密」と言えば、伝わります。注意を引き、記憶に残りやすく、説得力をもたせたい場合、「3」が使われます。

「3大〇〇」などはよい例かもしれません。人間の脳にも覚えやすく、思い出しやすいのが「三つ」らしく、野球は3ストライクや3アウトです。「心技体」や「守破離」、文章構成「はじめ・なか・おわり」など、物事の本質をしっかりと伝える言葉や場合も、「3」でできていて、収まりがよく、落ち着いたのです。

中学校は、4月から新学習指導要領のもと、教科書も新しくなり、学習評価も「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点になります。資質・能力を身につけるために「主体的・対話的で、深い学び」の実現を目指しています。それと同時に、生徒一人ひとりにコンピュータが配られ、授業等で活用できるようになります。これは、2019年12月、文部科学省が打ち出した「GIGA スクール構想」によるものです。文部科学省の資料によれば、「児童生徒向けの1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子どもを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された創造性を育む教育を、全国の学校現場で持続的に実現させる構想」です。「GIGA」とは、データ容量の大きさギガバイトとつながるイメージですが、「Global and Innovation Gateway for All」の頭文字をとったものです。「GIGA スクール構想」と言えば、コロナ禍においてリモート学習が可能になることなどが大きくクローズアップされています。しかし、子どもたちの多様性に対応するなど、担う役割は数多くあります。例えば、授業でコンピュータの中に一人ひとりが自分の考えを打ち込むとそれが一覧になり、友達の考えを知ることができます。そうすることで、考えをより深めることができます。また、調べ学習では収集した情報を、これまで以上に効率的に整理・分析できるようになります。報告するときは、写真・音声・動画等を用いた多様な方法を利用することができます。さらに、大学や専門家、海外の人たちともつなげて、遠隔授業を実現することも可能です。もちろん生徒に対する情報モラル教育も今まで以上に大切になります。

「次世代の学校・教育現場」 文科省のHPより



「GIGA スクール構想」は、「ソフト・ハード・指導体制」の三位一体の改革です。コンピュータなどのハード面ばかりが目立ちますが、これを機に、日課表や学校行事、学習課題や3つの学習形態（「一斉学習」「個別学習」「協働学習」）のバランスなど、「3」には到底収まりきれない多くの変化が待ち受けています。保護者の皆様のご理解とご協力を得ながら、その準備をこれからも進めていきます。

【参考】文部科学省が目指す次世代の学校・教育現場（具体的イメージ）



校内書き初め展

1月7日（木）から1月29日（金）まで
校内書き初め展として各教室に書き初めが掲示されています。
その中から金賞、銀賞、銅賞の書き初めを選び、金賞の作品については職員室前の廊下に掲示されています。学校に来られる機会があればぜひ見ていただきたいと思います。

また、総合文化祭「書写展」が桜木町の市民ギャラリーで行われました。

上白根中学校からは1年生の作品が展示されました。



PTA 保健厚生活動 ～『フレイジム』体験会～



PTA 保健厚生委員会では、保護者の方が楽しんだり、役立てたりできる活動を年2回計画し、多くの方に参加していただいておりますが、今年度は開催するかどうかから担当委員は検討しました。年度当初の「ハマ弁試食会」は見送りましたが、感染状況をみながら、講演会はできる範囲で考えました。

12月18日(金)13:30～15:00、体育館にて、校長・養護教諭を含め約20名がソーシャルディスタンスを十分に取って始めました。講師に山越さおりさん(日本教育キネシオロジー協会)をお迎えして『フレイジム』の体験です。『フレイジム』という簡単な身体の動きをすることで脳と体が統合され、リラックスできたり、逆に集中できたりするそうです。1970年代から米国より普及し、日本へも2006年に横浜から、子どもたちの健全な成長・発達、大人の心身の健康増進を目的に誕生しました。



『水を飲む』『体の状態を静かに感じる』『左右のバランスの良い簡単な動きをする』などを行い、身体を整えることで心も穏やかになり、午後のひと時、ゆったりした時間を過ごしました。いつもより短時間でお願いしたので、もうちょっと動きたいなという雰囲気もありましたが、質問にも丁寧に答えていただきました。当日参加して下さった保護者のみなさまはじめ、講師依頼や準備など委員の方、ありがとうございました。

保護者も生徒も、まずはご自分の健康が大事です。巣ごもり生活を強いられる中、運動不足になりがちですが、資料に余分がありますので、興味がある方は保健厚生委員担当：金澤までお声かけください。

学校保健委員会 『差別・偏見をなくすために ～感染した人への接し方～』

1月13日(水)5時間目、学校保健委員会を開催しました。コロナ禍の現在、体育館に一堂に会することは出来ないため、全校生参加型のテレビ放送という新たな試みでした。テーマ、内容ともに、生徒が考えに考えた『差別・偏見をなくすために ～感染した人への接し方～』です。



どの生徒も感染予防のため、学校でも家庭でも十分協力していただいているところですが、それでも感染することがあるのが新型コロナウイルスの怖いところです。誰もがかかる可能性があることを前提に、身近な誰かが感染してしまったことを考慮した対応も必要となってきています。そこで今回、日本赤十字社監修の「新型コロナウイルスがもたらす3つの”感染症”」の考え方をもとに、保健安全委員の質問にワークシートで答えたり、動画を観たり、差別・偏見について考える1時間となりました。

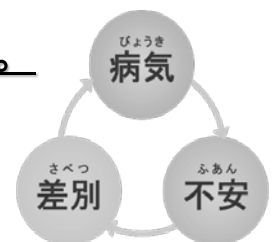
今回生徒が視聴した動画をこちらで限定公開しています。ぜひ、おうちのかたもご覧になっていただき、感染症に関わる社会問題についてご家庭でも、話し合ってみてください。

文科省公式



ご家庭や地域でも、ご協力をお願いします。

新型コロナウイルスのニュースを見ながら、「東京から来ないでほしい」「あそこの人、コロナになったらしいわよ。怖いよね。」など何気なく発した言葉を子どもたちは聞いています。



この感染症に対する大人たちの反応は、子どもたちの受け止め方にも大きく影響します。学校でも、今回の内容をはじめ継続して指導していきますが、ご家庭でも子どもたちが感染症への正しい理解のもとに適切に行動できるよう、3つの感染症が負のスパイラルとしてつながらぬよう、ご協力よろしくお願いたします。

鎌倉自主見学を終えて

12月17日（木）、1年生は鎌倉に校外学習へ行ってきました。体験学習では「鎌倉彫のコースター作り」、「ブラスアートによるコップの絵付け」を行いました。細かい作業で難しさはありましたが、自分だけの作品を作ることができました。

また、班のメンバーで鎌倉の街を巡り、歴史や文化、自然を満喫することができました。班で協力して助け合った経験を、これからの学校生活で生かしていきます。

事後学習では、新聞を作成して発表会を行いました。また、各班の発表を聴いて、鎌倉の良さをもっとたくさん知ることが出来ました。子どもたちにとって素敵な思い出ができました。保護者の皆様のご協力に感謝いたします。

